

### 3 学期終業式 式辞

2021. 3. 19

今日は、令和2年度の最後の開校日になります。3月1日に3年生を送り出し、どこか物足りない気もしていましたが、昨日合格発表を行い、4月8日に新入生360名を迎え入れる予定です。皆さんも入学時の初心を思い出してください。その3年生の皆さんは、コロナ禍の中、様々な鬱憤を晴らすように、進学面で近年にない素晴らしい成果を上げてくれています。皆さんが卒業生の残した伝統を立派に継承し、松山北高校の一段の飛躍の担い手として活躍してくれると期待しています。竹は節目があるから強いように、人も、人生の節目がしっかりしている人ほど、成長するといわれます。学年が変わるという節目を大切に過ごしてください。

さて、2年生の皆さん、修学旅行の中止は残念でしたが、スポーツデー、朗読のワークショップ、そして昨日の「野菊の墓」の観劇、校外活動とクラスの解散前に思い出に残る楽しい行事が実施できたことを嬉しく思います。また、102HRの皆さんは、私の18年ぶりの、そして最後の授業にお付き合いしてくれた上に、お花までいただき、ありがとうございました。

今日は、教師生活で印象に残っている生徒とのエピソードを二つ紹介したいと思います。

一つは、漫画家志望だった生徒の話です。志望を家族皆に反対されまさに四面楚歌の状態でした。担任だった私は、三者懇談会の際にお母さんに、「1,000人挑戦しても、999人は思ったようにはならないかもしれませんが。でもこの子が成功しないと限りません。それに挑戦せずに悔いを残してもいけませんから。もし、花が自然と散るように、自ら諦める時が来たら、その時は、だからあの時言ったでしょうと責めることなく、受け入れてあげてください。」とお願いしました。それから20年くらい経つでしょうか。漫画家として大成した彼が、お母さんに車を買ってあげたという話を最近嬉しく伝え聞きました。

二つめは、進路変更を希望していたある女子生徒の話です。10年ほど前、校長である私のところに学年主任と担任が退学届を持ってきました。何を言っても頑なに心を閉ざしており、万策尽きたということで決裁の判子を押してくださいということでした。私は、一度だけ会いたいからといって、校長室に来てもらいました。特に込み入った話をするわけでもなかったのですが、好きな曲を訪ねると「スターライトパレード」ということでした。10年前ですから SEKAI NO OWARI というバンドを私は知っているはずありませんでしたが、校長室のパソコンでYouTubeを再生して、二人で聴きました。その後、時々校長室を訪れるようになった彼女は、徐々に心を開いてくれました。もちろん学校に来たらという話はしませんでした。最終的には彼女は優等賞を受賞して卒業していったと聞いています。セカオワの「スターライトパレード」を聴くと、今でも必ず彼女のことを思い出します。

この二つの話を、教訓話にしたいわけではありません。二つの人生を比較できない以上、どうすればよかったのかは誰にも分からないからです。ただ、出会いや言葉が、人の方向を変えることがあるということは、事実だと言えます。人との出会いは偶然ではなく必然。そして、哲学者森信三の言葉に、「人は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早過ぎず一瞬遅すぎない時に」とあります。

また、中島みゆきの「糸」の歌詞の最後には、「逢うべき糸に出逢えることを人は仕合わせと呼びます」とあります。この松山北高校での人との出逢いもまた、一生のうちに逢うべき人との出会いです。大切にしてください。もちろん、皆さんとめぐり逢い、ともに過ごした日々は、私にとって一生の宝物となりました。

さて、春休みは、短い期間ですが、皆さんが節目をしっかりと過ごし、顔にいささかの重みを加え、一段と成長して新学期を迎えることをお願いしたいと思います。来年こそは、全ての教育活動、そして松山北高校 120 周年記念行事が盛大に行われることを祈念して、式辞とします。